

パーソナルヘルスケアの最新動向

コンティニューア・ヘルス・アライアンスの取り組みと普及状況

大竹 正規



コンティニューア・ヘルス・アライアンス 日本地域政策分科会 委員長、
日本 GE 株式会社 政策推進本部 部長

はじめに

日本では高齢化に伴い、2006年度から2015年度にかけて社会保障にかかる負担は医療で27.5兆円から37兆円へ、介護で6.6兆円から10兆円へと増加が予測されている¹⁾。

パーソナルヘルス分野は、その実態規模は正確には把握されていないものの、報道で知られている以上のスピードをもって急速に成長してきている。

“パーソナル”と言われるように、この分野の中心は予防医療や健康増進といった医療機関での診療とは一線を画している感がある。しかし、どこで線引きされているのかは明確でない。

医療機関での診療とは一線を画しているからまったくノーマークで、効果がなくても安全でなくてもよいというわけではないだろう。自身がその利用者であった場合には、何らかの検証がなされていて当然安心して使用でき、その結果は大方期待されるものであるだろうと漠然と期待する。

“パーソナル”の健康情報管理に関しても、この期待感を裏切ってはいけない。

コンティニューア・ヘルス・アライアンスの政策分科会としては、この医療

機関で使用される医療機器とは少し違う、健康増進に役立つ情報技術に関する規制はどうあるべきかに着目してきた。期待に応えられるような製品が、広く適切に開発されやすい規制制度の環境の構築が必要である。

コンティニューア・ヘルス・アライアンス全体の活動内容と、日本地域の政策分科会の活動内容を紹介したい。

コンティニューア・ヘルス・アライアンスとは

コンティニューア・ヘルス・アライアンス(以下、コンティニューア)は、相互運用が可能なヘルスケアシステムを構築することを目的に設立された国際企業団体である。健康機器や医療機器の通信規格の統一を目標とし、2006年に参加企業22社(日本では、2006年11月に6社から地域委員会を設立)で発足し、2014年3月現在167社が加盟している。

コンティニューアは、さまざまな機器がパーソナル・エリア・ネットワーク(PAN)やLANを介してさまざまなネットワークで通信できるためのコンティニューア設計ガイドライン(以下、ガイドライン)を設定している。PANにはBluetoothとUSBを、LANにはZigBeeをインター

フェイスとして定義している。さまざまな機器のネットワーク通信とは、具体的には体重計・体温計・血圧計などの機器とスマートフォン・タブレット・パソコンなどの情報通信のイメージである。

通信方法の規格自体は、IEEE 11073によって決められているが、現実的には、100%の接続を保証されているわけではない。既存の仕様を使いながら、より確実に接続するためにこのガイドラインを設定している。

このガイドラインを参照し、コンティニューアにて接続性の試験を受け認可された製品には、コンティニューア認証マークが付与される(図1)。コンティニューア認証製品はホームページで確認できる。

コンティニューア・ヘルス・アライアンスの活動目的

現在、日本のみならず世界で高血圧の人が急増し、世界の25歳以上の3人に1人が高血圧²⁾、また日本の高血圧疾患の年間医療費は1兆8000億円を超えている³⁾とされている。

高血圧の診断には、病院で測定した日中の血圧値のみならず、早朝に家庭で計測した血圧値が重要と言われている。家庭で毎日記録し、病院でその傾向などを把握することにより、診療のサポートとなるからである。

この家庭での血圧測定とその記録がパーソナルヘルスの一例になるだろう。

例えばコンティニューアの認証を受けた血圧計で計測したデータは、リアル